

Makuhari's Memory

すべての議論は未来に通ず。

東京2020オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けで、心躍る新年を迎えたはずなのに、市町村アカデミー入校日となった令和2年1月28日は、大型の寒波到来による関東・甲信越地方への大雪警報が出されており、新たな感染症に関する報道もありました。

このような社会情勢の中、全国の自治体から「介護施策の在り方」を選択して集まった44名の受講生の前で「代表幹事を仰せつかった」旨の挨拶をして、私の研修は始まりました。

講義は、介護保険制度の成り立ちや変遷、各事業の導入の経緯など、地域包括ケアに関する事案や取り巻く状況などを広く習得できる内容であり、課題演習では、グループに分かれて地域包括ケアが抱える諸課題について、様々な視点で議論を重ねました。

私たちのグループは、職員の経験年数や所属する自治体の状況の違いなどから意見の齟齬もありましたが、都度、言葉の定義を確認し合いながら議論を進め、「地域」をキーワードとする2つのコンセプト「愛着×連携」、「既存事業×誇り」を生み出し、これらに沿って具体的な事業案を作り、寸劇を交えて発表をしました。



「議論することを恐れてはいけない。変えることを恐れてはいけない。どんな優秀な一人の考えよりも10人で真剣に議論して導きだした結論のほうが、その人数以上の成果がある」。私が尊敬する上司の言葉です。

市町村アカデミーでの研修は、まさに議論が持つ無限の可能性を学ぶことができた研修であったと感じています。

まもなく、オリ・パラ聖火リレーが全国を回ります。受講生が所属する自治体を聖火ランナーが走る時、私たちは、受講生の顔と名前と過ごした時間を思い出すに違いありません。そして、また集まりましょう。「私たちが目指すものはなにか。そして、何を残していくのか」を語り合うために。

小島 淳史

埼玉県さいたま市
いきいき長寿推進課課長補佐兼
地域支援係長
〈受講研修科目〉
介護施策の在り方
第33期第1組（令和元年度）